

平成26年水準まで膨らみかねない民間在庫

過剰作付による供給増と新型コロナ禍の需要減が重なり、一気に膨らむ民間コメ在庫。うるち米の在庫状況(農水省調べ。出荷+販売段階、5月末前年同期比20万トン増)から推測すると、今年6月末には平成25年水準まで増加することが想定される。

3年産の作付面積は第2回意向調査(農水省4月末)以降も北海道や宮城県などで深掘りが進み、目標に対し「相当程度」の作付転換が見込まれるとされるが、3年産の作柄が、平年並み以上で推移した場合、来年6月末在庫は平成26年水準の250万トン超に拡大しかねない情勢。

主食作付面積は平成26年産から29年産までに15万2千haを削減。単年度で最も大きかったのは同26年産の6万8千ha減で、3年産の削減目標とほぼ同じ。類似年の概要は以下の通り(過去15年の推移は下グラフの通り)。

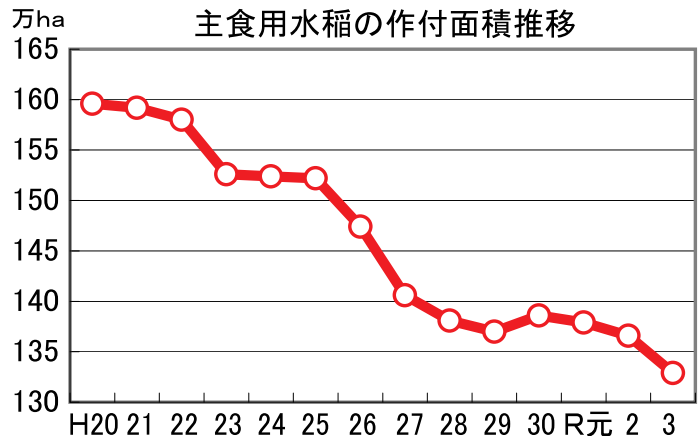
【平成24年産】過剰作付2万4千ha。作況102で生産目標比28万トン増。震災・原発事故後の不透明感から集荷競争で米価上昇。結果、消費減を招き、在庫急増。

【平成25年産】過剰作付2万7千ha。作況102で、生産目標比27万トン増。大量の古米在庫が発生し、契約が進まず。米穀機構による市場隔離35万トンを実施。

【平成26年産】過剰作付2万8千ha。作況101。生産目標23万トン増。売り急ぎ防止支援事業で27万トンを後送り。

【平成27年産～30年産】非主食用への転換が進む。生産目標の超過達成(深掘り)は、27年産1万3千ha、28年産2万2千ha、29年産1万7千ha、30年産1千ha。米価回復が一気に進む。

【令和元～2年産】米価高騰で、過剰作付が復活。作況99で結果オーライも、消費減が拡大し、徐々に在庫が膨らむ。新型コロナ禍で業務用需要が急減。



民間米の6月末在庫

